



TITLE:

中央銀行兌換準備検討

AUTHOR(S):

松岡, 孝兒

CITATION:

松岡, 孝兒. 中央銀行兌換準備検討. 經濟論叢 1934, 38(1): 160-177

ISSUE DATE:

1934-01-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130402>

RIGHT:

山本博士
還曆祝賀
記念論文集

京都帝國大學經濟學會

昭和九年一月一日發行

經濟論叢

第三十八卷第一號

(通卷第二百二十三號。禁轉載)

奉
呈

山本美越乃先生

執筆者一同

目次

尙書の虞夏書に見はれたる經濟思想	法學博士 田島 錦治 一
酒の專賣に就きて	法學博士 神戸 正雄 四
マールクスの認識論原理	文學博士 米田庄太郎 四
植民の世界史的意義	文學博士 高田 保馬 五
農業生産に於ける水平的分化と垂直的分化	經濟學士 八木芳之助 八
我國工業に於ける小企業の殘存に關する一研究	經濟學士 大塚 一朗 一七
資本蓄積率の差異と固定資本	經濟學士 柴田 敬 二五
中央銀行兌換準備檢討	經濟學士 松岡 孝兒 二六
貨幣需要と貨幣の流通速度	經濟學士 中谷 實 二六
植民地時代米國の土地保有制度	經濟學士 堀江 保藏 二九
米國の對玖馬投資とその影響	經濟學士 長田 三郎 二七

免稅點以下の小額所得者

經營學の基礎概念たる資本、企業及經營

世界科學に就て

漁村更生策に於ける問題

人口粗密の原因觀

徳川時代における植民的思想

ヘーゲル市民社會論と經濟學

恐慌と蓄積と植民

北海道鯨漁業に現存の漁場貸借關係

我國に於ける植民政策學の發達

クレルウキアに就いて

山本美越乃博士年譜及著書論文目錄

經濟學博士 汐見 三郎 二四

經濟學博士 小島昌太郎 二六〇

經濟學博士 作田 莊一 二六六

經濟學士 蛭川 虎三 二五五

法學博士 財部 靜治 二五五

經濟學博士 本庄榮治郎 三九

經濟學博士 石川 興二 三九

經濟學博士 谷口 吉彦 三九

經濟學士 岡本 清造 三九

經濟學士 金持 一郎 四七

農學士 若木 禮 四〇

經濟學士 高木 眞助 四七

中央銀行兌換準備檢討

松岡孝兒

一 序 言

一般に中央銀行が「銀行中の銀行」と謂はれる意義については、其の見る視角により夫々異ることは素より當然であるが、端的に云つてそれが第一に中央發券銀行の意であることは明かである。この見方は中央銀行の營む業務中、謂はゆる發券業務を通じて見たものであるが、併しまたこの「銀行中の銀行」なる意味の中には、更に第二に預金業務を通じての見方も當然に含まるべきことは斷るまでもない。然るに從來は一般に此の二者は等しく中央銀行の營む重要業務であるに拘らず、其の重要性は専ら之を發券業務にのみ置くの傾向にあり、其の結果、預金業務に關しては其の關心頗る低度に過ぎなかつた。このことは必然的に中央銀行の兌換準備に關する考察にも作用し、從來は一般に兌換準備は謂はゆる銀行券の發行に對する準備としか考へられず、預金業務關係上當然考へられなければならなかつた支拂準備に關しては、特殊なる國の例外的なものを除く外は極めて放心的であつた。然るに世界大戰後に於ける狀態は、もはや斯くの如き狀態を繼續せしめ得なくなつた。ここに兌換準備の檢討を意圖せざるべからざる重大理由が存する。

從つて、上述せる意味に於ける中央銀行兌換準備の檢討に際し、第一義的に問題となるのは此の兌換準備なるものの意義であるが、斯くの如き見方に於いて其の根本的標準を與へるものは中央銀行の役割そのものであることは當然である。此の役割が資本主義制經濟社會の發展につれて展開を遂げるものであることは已に述べたるが如くであり、此の意味に於いて兌換準備批判の標準も亦常に同一ではあり得ない、其の役割の發展に伴ひ變遷を遂ぐべきものであることこれまた勿論である。

斯くの如き見方に基づくとき、現在に於ける中央銀行の役割は、私見によれば貨幣價值安定に關し一國進んでは世界經濟の中に於ける多面的有機的統制にありとするものであるが、¹⁾斯くの如き見地よりすれば、キッシン及びエルキンが「中央銀行の本質的機能は、貨幣本位の安定維持にあり²⁾」とし、其の必然的結果としてそれは「通貨流通高の調節」を認め、「その唯一無二の權利として銀行券發行の權利が賦與されることになる³⁾」と喝破せることは注目し値すると謂ふべきである。また此等の點よりして兌換準備の意義を見るときは、キッシン及びエルキンが其の重要性は中央銀行の信用統制にあたり、之に伸縮力を與へるにありと謂へることは極めて注目すべく、⁴⁾それは又更に國際聯盟財政委員會金委員會の第一中間報告が「中央銀行の法定最低準備の主要なる役割は信認を與へるにある⁵⁾」と云つてゐること、更に第二中間報告に於いても「金準備の用途はある程度全信用組織に對する信用維持にある⁶⁾」とし、尙又其の最終報告に於いてもかかる準備が社會の

1) 拙稿：中央銀行役割の發展に就いて(經濟論叢第36卷第1號)參照

2-3) Kisch and Elkin: Central Banks, 1932, p. 74.

4) Kisch and Elkin: op. cit. pp. 8—9

5-6) Société des Nations: Deuxième rapport provisoire de la Délégation de l'or du Comité financier pp. 18—19

信認と密接なる關係を有つと云つてゐること等を比較するとき、そこに存する極めて含蓄的な示唆を察知すべきである。

蓋し兌換準備の存在なるものは、中央銀行をして貨幣價值安定のため、一國更には世界經濟に於ける多面的有機的統制を遂げしめる上に於いて、一方に於いては對內的に通貨及び信用の私恣的膨脹を防ぐ作用に參加すると共に、他方に於いては對外決濟上必要にして且つ充分なる金又は外國爲替保有の目的上、今日の中央銀行に於いては缺くべからざるものだからである。換言すれば兌換準備の存在理由は、其の貨幣價值安定上常に信用機構を通ずる彈力性の維持にあるといふことができる。

此の視角よりして私は以下まづ第一に兌換準備對象の發展についてのべ、第二に現段階に於ける兌換準備の内容を検討せんとするものである。

問題取扱は現行規定を一應前提とするものであること勿論である。従つて特にあげるものの外は私が既に述べたところによる。

二 兌換準備對象の發展

兌換準備の役割が一應以上述べたるが如しとすれば、先に論述せる兌換準備に關する現行規定はこの標準よりして如何なる傾向を示したのであるかといふことが問題の歸結となるが、結論的

7) Société des Nations: Rapport provisoire de la Délégation de l'or du Comité financier, 1930, pp. 56—57.

8) 拙稿：中央銀行發行準備に就いて(經濟論叢第37卷第4號)參照

に云へば、先づそこには兌換準備の弾力性を實際に適應せしめるための兌換準備對象の發展があつたといふことができる。立入つて説明を加へやう。

ここに兌換準備の弾力性を實際に適應せしめるための對象發展といふのは、一は質的の方面から又一は量的の方面から考察することができ。先づ第一に質的の方面より考察を進める。

A 兌換準備對象の質的發展

ここに謂はゆる兌換準備對象の質的發展とは世界大戰後に於いて從來の發券準備規定が主として發行銀行券額に對してのみ考慮されてゐたのに對し、之と共に更に一覽拂債務額に對しても亦之を適用せんとするに至れる傾向を名づけて謂ふ。尤も此の一覽拂債務額に對して支拂準備を設けるといふ考へ方は、事實に於いては世界大戰前にも既に認められたところではあるが、問題は世界大戰後に至つて、このことが特に發行銀行券額に對する準備と共に併立的に一般的に規定されんとするに至つてゐるといふことであり、それが世界大戰後に於ける兌換準備規定の特色だといふことである。

このことは中央銀行に於ける一覽拂債務額、例へば預金の如きものはその要求に従ひ、何時にても之に對する支拂が保證されてゐるものであるから、今もし斯くの如き一覽拂債務額に對する支拂請求があるとすれば、それはとりもなほさずここに兌換準備の引上を生ぜしめることとなり、此の關係は正に大戰前より一般に行はれてゐる發行銀行券額に對する兌換準備の關係即ち金貨又は金地金による兌換準備の關係と何等の相違がないことが考へられる。この事情は世界大戰間並

に其の後に於いて各國が謂はゆるインフレーション問題に遭遇すると共に、從來一般に行はれてゐた兌換對象中に一覽拂債務額に對する規定の欠缺してゐることが曝露されるに至り、更には爲替及び物價の動搖が銀行券發行額の増加及び金の引上を來さしめるに及び、それは究極に於いて已に述べたるが如く、發行銀行券額に對する兌換準備をも危殆に瀕せしめる虞あることが理解されるに至つて、遂にここに之が對策の必要を信ぜしめるに至つたものである。

併しながら此の事實は必ずしも直ちに本質的に發行銀行券額と一覽拂債務額とを同一視して其の間に區別をなさず、無差別に此等兩者を取扱つてゐるといふことを意味するものではない。私には其の點については後に項を改めて論ずることとするが、要するに以上述べた點は、主として兌換準備の對象に關し、一般に世界大戰前に適用されてゐた型より世界大戰後に用ひられてゐる型への發展に注目し、其の型に於ける兌換準備の對象は、單純なる發行銀行券額から複式なる發行銀行券額と一覽拂債務額とを含みたるものに展開しつゝあることを述べんとするにある。

此の間の事情については既に述べたる如く、中央銀行の存在が世界大戰を経過することによつて單に謂はゆる中央發券銀行たるのみでなく、同時に中央預金銀行たるの意味が明確に把握され、斯くの如き立場に於いて、其の兌換準備は中央銀行の役割を果す上に其の信認確立の立場より銀行券發行の準備たると同時に、一般預金銀行に於ける支拂準備たるの機能をも兼ねんとするの意圖に出でたるものなること明かである。其の同一視は勿論論議の餘地なしとはしないが、少くも

消極的に兩者の不可分的存在たることが明かにされたと見るべきである。

然らば如何なる事情が從來斯くの如く支拂準備を輕視せしめるの事情を生ぜしめてゐたのであるか。それは中央銀行の歴史そのものが之を物語つてゐる。即ち「舊來の發券銀行に關する特許狀が認められた當時にあつては、銀行券が他に銀行が設定する如何なる形式の通貨よりも一層目立つ役割を演じてゐたために注目は銀行券にのみ集中され、中央銀行の預金機能が之に比して著しく輕く扱はれてゐた。」¹⁰⁾然るに「……經濟狀態の進歩すると共に現實の通貨(筆者註銀行券)の相對的重要さは當座貸付に比して漸次減退しつつある。發券に對して保有される資産の調節が必要かくべからざるものであるとする限り、銀行準備金も亦之を無統制に委ねて置くことが本來正しいか否か當然問題とさるべきである」¹¹⁾と論ぜられるに至つたからである。

或はこの點について銀行券發行額の制限が自ら當座貸付に對する充分なる抑制となるといふ議論もある。併し元來中央銀行兌換準備に關する規定は、中央銀行と雖も信用上は必ずしも絶対に安全でないといふ事實があることから存在してゐるものである。然るに銀行券發行準備にのみ之が規定を嚴密にし、支拂準備に對しては之が態度を異にすることは到底是認されざる點である。¹²⁾勿論此の點は例へば英蘭銀行の如く、大戰後に於いても依然として發券部と銀行部とを分ち、發券機能と銀行機能とを分つ主義によるものについては別問題である。併しこの分立主義が多く缺點と不利とを現實に暴露してゐることはあまりに周知のことである。

10-11) Kisch and Elkin: op. cit. p. 81.

12) Kisch and Elkin: op. cit. p. 82.

B 兌換準備對象の量的發展

此の問題に關し世界大戰を界として示せる特長は大體大戰前の各種準備より比例準備への發展である。尤も比例準備と云つても各國に於ける事情は必ずしも同一ではない。また同一であるべき筈もない。國際聯盟金委員會は此の點に關し其の中間報告に於いて次の如くいづてゐる。¹³⁾「一國のために必要な銀行券額及び一覽拂要求額に對する準備額は一定の異なる諸要素により決定される。例へば農業國又は價格變動著しき小賣商品を取扱ふ國に於いては然らざる國即ち其の經濟力が多方面に關係し、その信用も亦堅實なる國に比して比較的大なる準備を要することは必然的である。従つて一般的法則を求めることは不可能である」と。このことは以つて兌換準備に關する量的内容に齊一性を與へ得ざることを示す一證左である。

其の率は一般には三〇パーセント乃至四〇パーセントの間に決定されてゐるが、併し元來此の比率は經驗上より斯くの如き比率こそ一定の有効性を有するものであるといふによつて定められたものであつて、如何なる理論が此等の具體的數字を決定するか、又何が故に一方の比率が捨てられ他方の比率が採用されたかを説明する絶對的標準はない。唯かくのごとき比率の選定に果して如何なる條件が考慮されてゐるかといふ點に關しては若干の問題なしとせぬ。これ以下に於いて取扱はんとする問題である。

先づ第一條件は兌換準備の義務的最少限度を充たすべき内容が、極めて稀な場合を除くの外は一方に於いて金及び金爲替以外のものを以つてして尙よく之を充たし得るといふことと、他方に

13) Société des Nations : Rapport provisoire de la Délégation de l'or du Comité financier, 1930, p. 19.

14) 拙稿：中央銀行發行準備に就いて(經濟論叢第37卷第4號)參照

於いてこの充たすべき對象が僅に發行銀行券額のみでなく、更に一覽拂債務額をも含むに於いて一般に比較的高率が要求されてゐるといふことである。其の關係は事實上に於いても亦多くの場合兌換準備は其の法律又は定款上に於いて規定されてゐる割合よりも著しく高く決定されてゐる現情にある。

更に第二に注意すべき條件は兌換準備は今日の如く大戰後に於ける影響下にある場合は貨幣價値の安定上特段なる高率兌換準備を行はなければならないといふことである。此の點については國際聯盟金委員會¹⁵⁾が「かくて法定最低準備の主要な役割は信認を與へることである。實際の運用はこの最低準備によるものでなく、其の外に金又は直に金に代へられる添加的資産によつて行はれる」と云つてゐるが、斯くの如き主張の起る所以は高率なる兌換準備が心理的價值あること、また高率なる兌換準備が貨幣及び信用制度の連帶關係に效果を示すものであること、また更に大戰に伴ふ各國の貨幣事情がその健全性を求めんとし、且つ各國協調の實をあげなければならないといふ事情の存する限り、準備をして能ふ限り確實ならしめんとする考がおこつた結果であること等に注目しなければならないからである。

更に第三に注目すべき條件は、兌換準備が從來に比して一層嚴密な規定に置かれたといふことである。このことは發券銀行が「銀行中の銀行」として一方に於いて中央發券銀行の性質を有つと共に、他方に於いて中央預金銀行として、之を要するに中央準備銀行としての役割を有つに至つ

15) Société des Nations: Rapport provisoire de la Délégation de l'or du Comité financier. 1930 p. 19.

た必然的結果である。中央銀行の役割が此等二つの役割を通じて一定の發展を遂げたといふことは中央銀行をして嚴密なる兌換準備を採用せしめるに至つた原因であるが、このことはまた益々中央銀行が信認によつて條件づけられてゐることを示す。今中央銀行に於ける勘定が小切手及び振替等の利用によつて増加し、資本は集中され、商工業はその勘定を銀行に委託するの慣習が高まり、遂には此等の事情を通じて一般銀行に於ける支拂準備を減するに至るときは、このことは中央銀行の信用統制に對する期待をして益々大ならしめ、それは惹いてその資金の流動性、更には兌換準備に對する監督を嚴密ならしめるものである。惟ふに兌換準備はあらゆる信用ピラミッド成立の根據である。故に兌換準備の最低義務比率を比較的高率に維持することは、發券銀行の責任として形式上當然認められるところであるといはなければならない。

此種問題に關し一般銀行により認められてゐる信用に對する準備は北米合衆國の例によれば一〇乃至一三バアセントであるが、併しかくの如き一般銀行に於ける準備率は中央銀行に於ける第二の準備によつて掩護されてゐる。従つて此の率を以つて兌換準備に對する何等かの示唆を求めんとすることは妥當でない。斯くの如き點より見るときは、中央銀行の兌換準備率を現在以下に低下せしめるといふことは、たとへば一般銀行に於ける準備率の意味する第二防禦陣地を薄弱ならしめると共に、更に危機に際し突撃し來る敵の増加にも比すべきものである。かくて中央銀行の兌換準備率の低下はこれに従つて信用ピラミッドの頂點の尖銳化と底線の擴大化とを意味する

16) 聯邦準備法第十九條（日本銀行調査局：各國發券銀行及通貨關係法規其五
亞米利加合衆國ノ部 P. 53）

ものであると共に、兌換準備率の増大はまた益々全信用制度を活潑ならしめると共に、よく危機に對し中央銀行が必要とする信用需要額を供給するものである。

以上之を要するに兌換準備の彈力性を實際に適應せしめるには、兌換準備の對象と共に其の比率への關心による。それは世界大戰後に於いては相當高率なる準備を要求してゐたのであるけれども、其後次第に減少の過程にあるといひ得られるものであり、その意味に於いて最も實踐的なものを含む問題であるといふことができる。

三 現段階に於ける兌換準備内容の検討

兌換準備の對象が如何に世界大戰を界として其の擴充發展を遂げたかは已に述べたところによつて明かである。かくて問題は現段階に於ける兌換準備内容の分析に移る。兌換準備内容の検討についても問題を質的なものと量的なものに分つ。まづ第一に質的なものより検討し、次に其の量的問題即ち兌換準備率の問題に移る。即ち検討は二つに分れる。一つの問題は兌換準備の内容の問題であり、それは發行銀行券額及び一覽拂債務額に關するものであるとして此の兩者に對し同一兌換準備を充てるものと、その對象の複式要素に對して各別の兌換準備を充てるものとに關し、如何なる考慮が拂はれ、またそれは如何に批判されなければならないかといふことである。そして一つの問題は斯くの如き場合に於ける準備率は如何に考慮され、また如何に批判さ

れなければならぬかといふこと即ちこれである。

併し又私は、此の場合如何なる現行規定が斯くの如き問題を提出してゐるのかといふことも一應之を省みる必要があると考へる。今其の實際につき例をあげると一つはフランスの規定であり、一つは北米合衆國及びドイツに於けるそれである。今フランスの規定によれば、其の一九二八年六月二十五日の貨幣法第四條は、¹⁷⁾「フランス銀行は銀行券流通額及び當座勘定貸方額の合計額の少くとも三五パーセントに相當する金地金及び金貨の準備を保有すべし」と規定してゐる。又米獨に於ける例を見ると、先づ北米合衆國について云へば、聯邦準備條例中、紙幣發行に關する第十六條第二項の規定は、¹⁸⁾「聯邦準備銀行は其の預金に對し三五パーセント以上の金又は法貨を準備として保有し、又聯邦準備券の現在流通額に對して四〇パーセント以上の金準備を保有すること¹⁹⁾を要す……」とし、更にドイツについて云へば、ライヒス・バンクに關する規定は其の第二十八條第一項に於いて、流通銀行券額に對し金又は外國手形にて四〇パーセント以上の準備を要求し此の準備中四分の三以上は金を以つてすべしとし、外國手形として外國の中央金融市場に於いて支拂能力確實なる銀行にて外國通貨にて支拂はるべき銀行券、満期日十四日以内の手形、小切手及び要求拂債權を以つて充てると規定するの外、更に殘額四分の一に對してはライヒス・バンクの營業に規定された條件に適する割引手形又は小切手にての準備を要求してゐること即ちである。²⁰⁾更に又同第三十五條に於いて、ライヒス・バンクは其の定款第二十八條に定むる流通銀行券

17) 日本銀行調査局：各國發券銀行及通貨關係法規其三、佛蘭西ノ部（追補）
p. 2

18) 日本銀行調査局：各國發券銀行及通貨關係法規其五、亞米利加合衆國ノ部
p. 42

19) 日本銀行調査局：各國發券銀行及通貨關係法規其四、獨逸ノ部 pp. 18—19

20) 日本銀行調査局：上掲書、p. 22,

額に對する準備の外、又要求拂債務に對しても常に四〇パーセント以上の特別準備を設けることを要とし、此の準備は直ちに處分することを得べき内外國に於ける預金(當座預金)、他銀行宛小切手、満期日三十日以内の手形、又は動産擔保貸付に基づく要求拂債權を以つてすることを要すと規定してゐる。

以下項を改め此等二つの問題について説明を試みるであらう。

A 兌換準備内容の質的検討

以上述べたところよりして、兌換準備内容について其の型

を求むるときは、そこにはまた二つの型が數へられる。其の第一は發行銀行券額並に一覽拂債務額に對し單純に金準備を充てるものであり、第二は發行銀行券額に對して一般準備を設けるの外、更に一覽拂債務總額に對して特別準備を設けんとするものである。以下前者を單式兌換準備型といひ、後者を複式兌換準備型と呼ぶとすれば、單式兌換準備型に於いては専ら金準備を以つて其の兌換準備に充てるに對し、複式兌換準備型に於いては一般準備として金準備を充つるの外更に特別準備として金、法貨又は預金、一覽拂債權、短期債權等々を其の内容として認めんとするものである。²¹⁾

要するに此の二つの型の意味するところは、第一型は發行銀行券額と一覽拂債務額とを同一視し、之に對し單一なる兌換準備を充てるものであるが、之に反し第二型は此の兩者を區別し之に對し夫々異なる兌換準備をば充てんとするものである。従つて兌換準備の對象としては世界大戰

21) Kisch and Elkin: op. cit. pp. 80-82; Ulrich, E.: Les principes de la réorganisation des banques centrales en Europe après la guerre, 1931, pp 250-252.

後に至り、發行銀行券額の外更に一覽拂債務額を加へるに至つてゐるものであり、しかも其の準備は已に述べた通り必ずしも兩者を無差別的に取扱つてゐない。事實フランスに對し北米合衆國及びドイツの規定するところは全く對蹠的であることは、これ亦既に述べたところに於いて明らかである。然らば何が故に斯くの如き對蹠的規定が存在するか。またそれは如何に吟味さるべきであるか。

第一型に於ける單式兌換準備採用の理由は、兌換準備の對象たる發行銀行券額と一覽拂債務額とを同一視したる必然的結果であることは前述せる通りであるが、それは即ち其の對象の如何を問はず、兌換準備に對する支拂請求は何れも結局に於いて中央銀行の兌換準備たる金の引上を將來するものと考へたからである。

然るに第二型に於ける複式準備に於いては、兌換準備に對する支拂請求は結局に於いて、何れも金の引上には關係するけれども、併し此等兌換準備の對象となるものは、必ずしも同一性質のものではない。従つてその限り、兩者は必ずしも同一内容による準備を必要としないと見るものである。兌換準備の内容は、已に述べたるが如く、其の國々の事情によつて即ち其の國の經濟組織特には金融組織の構成如何によつて定まるものだからである。即ち一方に於いて其の國發行の中央銀行券が、その國經濟組織特には金融組織の構成に關して有つ重要性は、他方に於いて其の國上述の構成に於いて示す中央銀行の一覽拂債務額の如きが營む役割の重要性とは異ると見なけ

ればならないからである。換言すればそれは其の國中央銀行が國民經濟組織特に金融組織構成に於いて有つ重要性、其の一般銀行との關係、支拂慣習、中央銀行預金の性質等に依存するものだからである。

此の間に於いて國際聯盟金委員會は其の中間報告に於いて述べて曰ふ。「……現在法律によつて要求されてゐる最低準備は大部分……從來の傳統とか協定とか慣習とか又は一般的慣行から獨り外れることは自國通貨の信用を傷けるといふが如き本能的警戒とかによる結果である」²²⁾と。その意味するところは、上述せる如く此等兌換準備の内容は論理的には當然區別し得る根據あるにかかはらず、實際は反つて此等兌換準備内容を同視的に取扱つてゐることを示すものである。即ち論理上に於いて其の内容を異にし得と見る限り、區別さるべき二つの兌換準備が實際上に於いて一の對等なる取扱を受けるに至つてゐる事情であると思ふべきものである。

尙又兌換準備内容に於ける此等二つの種類の辨別は、苟くも中央銀行の機能をば中央發券銀行としてのみならず、更に中央預金銀行として解する限り、到底困難であり、其の非常時に際して多くの場合激烈なる兌換請求と預金引出とが起るところ、中央銀行は現金支拂に於ける此等兩種の請求を區別することは不可能となる場合が多い。²³⁾そしてかくのごとき實際はまた支拂準備として特別の準備を設けることの無意味なることを示す。このことは世界大戰後に於ける多くの國の²⁴⁾中央銀行兌換準備の規定がフランスのその如く、其の發行銀行券額と一覽拂債務額とに於いて

22) Société des Nations: Rapport provisoire de la Délégation de l'or du Comité financier, 1930, p. 19.

23) Kisch and Elkin: op. cit. p. 82.

24) オオストリヤ國立銀行定款第八十五條(日本銀行調査局:各國發券銀行及通貨關係法規其十四條太利ノ部 pp. 41—42) ハンガリヤ國立銀行定款第八十五條(日本銀行調査局:上掲書其十五、pp. 43—44.): チェコスロヴァ

之を同一と認め、一率に之が兌換準備を規定してゐる所以でもある。

以上述べたる點は素より中央銀行がその發券機能と銀行機能とを區別せざる場合である。もし之を區別することかの英蘭銀行の如くなるに於いては、事情は全く異なる。即ち英蘭銀行の如く兌換準備を單に發券總額に對してのみ限るに於いては、それは英蘭銀行の一覽拂債務額を總括的に示すことを得なくなるのみならず、しかも其の發券機能は極めて非彈力性となるの嫌があることになる。

B 兌換準備内容の量的檢討

以上に於いて私は、中央銀行の兌換準備が世界大戰前に於いて先づ單純に發行銀行券額への準備なりしものが、大戰後更に展開して之と共に一覽拂債務額に對して之を擴張すべしとするに至つた事情を述べ、更に進んで此等發行銀行券額及び一覽拂債務額に對する準備そのものに於いては、單純なる金又は金爲替を以つてする準備のみならず、複合的な準備の規定されてゐること及び其の決定事情を述べた。以下に於いては此の問題に關係してその兌換準備が如何なる比率をとつたかを吟味せんとするものである。

此等の事情にあつて最も注意すべきことは、フランスの如く上述せる一覽拂債務額に對して發行銀行券額と同一準備率を採用せることである。此の點に關する考察は次の二點に歸着すると思ふ。

其の第一點は、兌換準備に關する現行規定そのものが已に相當の高率を要求してゐるが、更に

また中央銀行がその役割を果すためには一層進んで其の間に存する比率に差別を設けるよりも、寧ろ之を同一視するに如かすとする點である。即ち此の點は前に述べたるが如く、兌換準備率なるものが、元來論理的立場に於いて考察されてゐるよりも、著しく實際的立場に従つた存在であるといふ點よりして容易に首肯し得られる。

第二點は大戦前の金貨本位制は、大戦後に於いて金地金本位制及び金爲替本位制に發展した結果、危機に際し中央銀行よりの預金引上は對外支拂決済のため金を要求する場合を除き、結局預金の銀行券に對する引換に過ぎないものであり、²⁵⁾かくのごときは兌換準備率の見地よりしてその相互間の區別を認めざるを以つて適當とせざるを得ない。

然るに上述せる如く、米獨に於ける例は發行銀行券額たると一覽拂債務額たるとにより兌換準備率を區別してゐる。例へば北米合衆國に於いては、一九一三年に制定せる聯邦準備條例は銀行券に對する金準備は最低四〇パーセントと規定され、ただ銀行が特定の租税を拂ふ場合に於いて——しかもそれは累進税であつて當然割引貸付率に加へられなければならない——例外的に此の限界以下に低下し得るとし、更にこの外銀行は其の預金に對して三五パーセントの特別準備を保有し、此の特別準備は之を金又は法貨によつて充てて得と規定してゐる。更に又ドイツの例を舉ぐれば、ライヒス・バンクは一九二四年八月三十日の銀行法によつて謂はゆる複準備制度を規定してゐる。今同銀行法第二十八條並に第三十五條に於ける規定を要約すれば、ライヒス・

25) 此の點は近年フランスに於いて一般銀行の預金が引出されそれがフランス銀
行の發行する銀行券に引換へられた事實の如きについて見ると最も明瞭
である。

バンクはその發行銀行券額に對して少くも四〇パーセントの金又は金爲替準備を保有すべく、その中最低四分の三は金準備によつてなされることを必要とするの外、其の一覽拂債務額に對しては少くも四〇パーセントの特別準備を保有しなければならず、そは内外國に於ける預金、小切手、短期手形等によつて充當されると規定してゐる。

兌換準備率規定に關し、斯くの如く差別を設けることは多くの誤解を生ぜしめるの虞がある。蓋し中央銀行債務のあるものが一定資産の一定準備率によつて保證されるに對し、また他のものが特殊擔保の特殊準備率によつて保證されるといふが如き事情を生ぜしめるからである。特にドイツに於ける事實の如きは預金が銀行券によつて引上げられるに際し、その兌換準備内容の異なるに應じ特種なる不利不便を生ぜしめる。斯くの如き不利不便は特に政治的財政的危機に際し惹き起されるの傾向あるに於いて益々重大となる。従つて中央銀行が兌換準備率を其の對象により異にすることは重大なる反省を要求せられざるを得ない。此等の理由よりして一般に發行銀行券額並に一覽拂債務額に對する兌換準備率規定に關しては、同一率の適用を以つて妥當なりと判斷せざるを得ない。²⁶⁾

四 結 言

是に由つて之を觀れば、中央銀行の兌換準備は、それが中央發券銀行の機能と共に、中央預金銀行

の機能を營むの意味に於いて、即ち謂はゆる「銀行中の銀行」なるの眞の價値を發揮する限りに於いて、其の内容に於ける發展擴充が行はれたことは當然であり、また實際必然でもある。此の意味よりすれば、中央銀行の兌換準備は、從來の如く單に發行銀行券額に對して準備されるのみでは今やその中央銀行の中央銀行たる意義は遂に之を發揮し得ない。そこには必然的に謂はゆる一覽拂債務額に對する支拂準備をも含まるべきことが要求される。

併しながらかくの如き論理的追及の可能性にもかかはらず、兌換準備を此等對象に應じて異にすることはまた異論の存するところである。蓋し發展し擴充された兌換準備は、中央銀行が有つ本來の役割によつて必然的に要求され決定されたものであつて、然る限り兩者は混然一體として中央銀行の役割に結合すべきであり、そこでは何等の對立的又は部分的考察は許容されないからである。このことは準備率についても同様である。従つて中央銀行役割の積極的方面よりは尙多少の問題はあらうが、一般には兌換準備は比例準備の限り發行銀行券額及一覽拂債務額に對し、共通なる比率による金準備によるべきものと考へられる。